

せいけん
詩集

第四十七篇

作：近藤せいけん

「心」

心こころつてどこにある 心こころつて見えるものですか
あなたは心こころの有あるところ 知しっていますか

「そうね 見みたことはないねえ」

「でも あるんだよねえ」

「生いきていることが 心こころと一いっしょなんだと思うおもう」

「心こころはもしかして 頭あたまの中なかにあるんじゃないか」

「頭ずのう脳のうとか 脳のうみそとかに・」

「うん 難むずかしいな 考かんがえれば 考かんがえるほど 解わからない」

「いいんだよ 心こころがあるつてことが気きがつけば」

「そうだね 心こころがどこにあらうと あまり問もな題だいじゃないね」

「そう そう 毎まい日にち生せいきてゆければ 心こころがついてくるさ」

「心こころがよよれているより 心こころがきれいなほうがいいね」

「んん そうだね そのほうがいいね」

「君きみは心こころがきれいだね」

「んん ありがとう」

「そんなところで 今日けふは帰かえろう」